

# 家の恥誰にも言えない

## 声なきSOS

福井のヤングケアラー

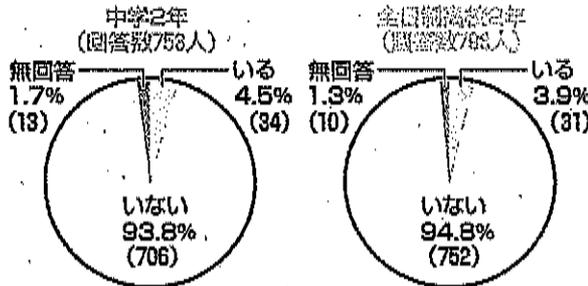


②

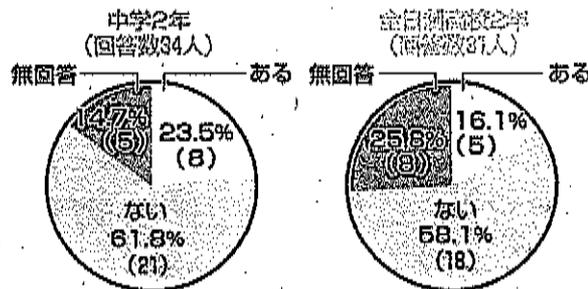
福井県立高の1年途中までヤングケアラーとして弟を世話した20代のリサ(仮名)。中学から付き合う友人に過去を明かすと「全く知らなかった」と驚かれる。当時は近所付き合いがなく、同級生にも学校にも真実を隠していた。

友人が家に来て「女関で迎え、すぐ外へ出た。絶対に中へ入れなかった」。こみだらけの環境で弟を世話する親業は「恥かしくて言えない」。友人が家に来て「女関で迎え、すぐ外へ出た。絶対に中へ入れなかった」。こみだらけの環境で弟を世話する親業は「恥かしくて言えない」。

世話している家族がいるか



世話について相談したことは



誰にも相談できない。当事者の孤立は、多くのヤングケアラーに共通して見られる特徴だ。

福井県が昨年9、10月に初めて行った中高生(ともに2年生)への実態調査によると、「家族を世話している」との回答は4%前後(高校は全日制)と、少なくとも1クラスに1人から2人いる結果が出た。このうち約6割が「誰にも相談したことがない」と答え、「今の状況について話を聞いてほしい」「将来の相談に乗ってほしい」などと孤独感をあらわにする回答も一定数見られた。

日本ケアラー連盟理事の中村健治さん(北海道社協)は言う。

「日本では世帯人数が縮小したのに、いまだに家庭内のケアは家庭でその固定観念が根強く、18歳未満が担い手になる例が増えている。子どもたちは発覚を恐れたり、世話を当たり前だと思いつい込んだりする傾向がある。事情も知らずにヤングケアラーを「家族思いの偉い子」と美化する考え方もあり、人知れず悩みを抱えてしまっている」

# 頼れる大人が欲しかった

現在、リサは働ながら子どもを育てるシングルマザーとなった。母とは7年近く連絡が途絶えている。「もう会うことはない」第2人と過ごした10代。悪臭の漂う部屋で時折、父親が欲しいと強く願った。3歳の時に両親が離婚したから、顔も声も知らない。「もしお父さんがいたら、遊んだらどうかな」。話を聞いてくれ、信頼できる大人を求めていた。

(富崎翔央)